広報 さむかわ

11
No.706
November
2018

サークル入会体験フェスタ

今月のTopics（トピックス）

問町民センター　☎(74)2333　FAX(75)2239
町民センター分室☎&FAX(75)0021
北部文化福祉会館☎(74)1515　FAX(74)7405
南部文化福祉会館☎(75)0281　FAX(75)1777

町民センター・分室、北部・南部文化福祉会館の3館1分室合同で、サークル入会体験フェスタを開催します。期間中、各種サークル活動をしていますのでこれを機会にご参加ください。

日11月1日(木)～30日(金)
所町民センター・分室、北部・南部文化福祉会館
※各サークルの体験スケジュールは各会場でご確認ください。

目次 CONTENTS

P2　今月のTopics（トピックス）
今月の表紙　2

P3-5　特集1　寒川みんなの花火を支える人たち

P6-7　特集2　さむかわの「ごみ」について考えよう！

P8-14　Close UP! さむかわ（クローズアップ）

12月9日(日)は特別開庁日です　8
まちづくり懇談会を開催します　8
あなたの住民活動をサポートします　8
住民活動補償制度
eモニターの声がきっかけで　9
実現しました
不用物品の有効利用　9
町内認可保育所への入所申し込みが　9
始まります
町放課後児童クラブ入所　9
申し込みが始まります　9
全国一斉緊急情報伝達試験　10
町継走大会・ロードレース大会　10
健口（けんこう）のヒント　10
第7回　寒川を築いた人たち　10
町議会初 オープントークカフェ開催　11
生活習慣病予防 健康メモ②　11
がん集団検診　11
コミュニティバス平均乗車人数　11
産業まつりと同時開催のイベント　12
公共建築月間2018公共建築　12
クイズラリー　12
ちょっと気になるあそこの会社　12
防火ポスターコンクール　13
受賞作品決定！
コミュニティ助成事業助成金活用　13
本棚のだ～なくん　13
湘南広域ニュース　14

P15　さむかわReport（レポート）

P16-21　information（インフォメーション）

P22-23　11月のカレンダー
寒川町家族防災会議の日　22
人口と世帯　23

P24　Instagram Samukawaii GALLERY（インスタグラム）

今月の表紙

昨年の寒川みんなの花火の様子です。みんなの力や想いが合わさって、秋の空を彩る花火は、美しく、感動的です。今月号の特集では、この花火を支えている実行委員会の皆さんにスポットを当ててみました。
詳しくは、P3～5をご覧ください。

特集 1
寒川みんなの花火を支える人たち

問 産業振興課　☎内線763　観光担当　FAX(74)2833

寒川みんなの花火を咲かせるために…

毎年11月に開催される「寒川みんなの花火」。

この花火大会は、文字通り打ち上げ資金から当日の運営まですべて町民の皆さんの力で成り立っています。

中でも、実行委員の皆さんは、町内の商店や役場などに募金玉を設置したり、地元企業や個人からの協賛を募ったりするなどの資金集めや、町民の皆さんが安全に楽しく花火が見られるように、各所との調整や準備に駆け回っています。

実行委員会は、昨年まで青年3団体（青年会議所・商工会青年部・さがみ農協青壮年部）で組織していましたが、それぞれ本業や家庭などがある中、「花火を上げる」という大変な事業の継続は実行委員会の形態を変えなければ難しいという判断で、一度は前向きな休止が決定されました。

しかし、町民の皆さんをはじめ、多くの人が楽しみにしている花火大会。

「できることを一つずつ集めれば、開催できるのではないか？」との想いから、町民有志、さむかわ災害ボランティアネットワーク、青年会議所の皆さんが中心となって今年も開催することが決定されました。

前記のような状況をふまえ、花火を継続していくために私たちができることはなんでしょうか。

実行委員会の活動内容を知ることで、自分ならなにができるのか、ぜひ一度考えてみてください。

地域参加のきっかけになり、新しいつながりが生まれるかもしれません。

実行委員会の主な活動内容

- 募金玉の配布と回収
- 協賛のお願いと集金
- 打ち上げ場所周辺の地権者さんへのお願い
- 当日の警備・交通規制とその調整、準備
- 広報活動
- 駅前公園のイベント（今年は実施しません）
- 打ち上げ翌日のごみ拾い

※毎年3～5月ごろに組織して、11月の花火打ち上げに向け活動しています。

ボランティアスタッフ募集

ボランティアスタッフを随時募集しています。

左ページ下段のURLまたはEメールまでお気軽にお問合せください。

一つひとつ手作りで製作している花火の募金玉

有志で集まる寒川みんなの花火実行委員会

実行委員長に聞いてみた

第7回実行委員長
千葉広明さん

Q1 寒川みんなの花火はどのように始まったのですか？

東日本大震災という未曾有の大災害を経験し、不景気も相まって地域が沈みつつある中でさまざまな行事やイベント、政策が縮小され、地域住民の気持ちまで沈みがちになっていました。

「皆の気持ちを晴れやかにし、少しでも町を盛り上げたい。」そんな想いの下、みんなの花火はスタートを切りました。2012年のことでした。

町民の皆さんはもちろん、町を出て行ってしまった人も帰ってきてみんなで集えるような日があればという想いも込められています。

Q2 他市町村の花火との違いはなんだと思いますか？

他の市町村では、行政または商工会や観光協会などの公共的団体が主導のケースが多いと思います。

寒川の場合は、「町民の町民による町民のための花火大会」なので、その点が一番の違いかなと思います。

また、打ち上げ場所にも特徴があると思います。海や川で打ち上げる市町村が多い中、町の中心地に近い田んぼで上げているのは珍しいと思います。

Q3 現在課題としていることなどがあれば教えてください。

花火を楽しみにしている人もたくさんいる反面、花火自体の規模も小さいですし、町内でも打ち上げ場所から遠いところに住んでいて実感がないという人もいらっしゃるようです。

みんなの花火は、「町民1人につき100円の募金をいただいて上げられる規模の花火をみんなで」というコンセプトでやっていることもあり、そのあたりが課題だと思います。

また、運営側としては、7回目を迎え年齢を重ねるにつれ、仕事面でも地域活動でも徐々に担う責任が重くなることに伴って、花火に携わることが難しくなるメンバーが多い点、新しいメンバーに経験をうまく引き継げていない点、事務をやる人を確保できない点などの課題も抱えています。

Q4 町民の皆さんへ一言お願いします。

まず、募金などさまざまな面でご協力いただき、ありがとうございます。

みんなの花火は青年3団体で始めたものですが、町民参加型の花火を目指しています。

花火をやることで地域のつながりが生まれれば、それをきっかけに住民団体を作ったり、地域課題に向き合ったりと、町が活気づいていくと思います。

皆さんの参加をお待ちしています。

前実行委員長に聞いてみた

Q1 昨年度実行委員長をやられてどうでしたか？

町民の皆さんには、多大なるご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございました。おかげさまで、第6回までを無事に終えることができました。

運営していく上では、特に安全面に気を遣いました。

やらなければいけないことのボリュームもあり、大変なイベントでしたが、町民の皆さんから好評の声を聞き、喜んでいただいている実感がありました。

Q2 みんなの花火への「想い」を教えてください。

募金をいただいたり、当日の警備をボランティアでやっていただいたり、皆さんの力がないと上がらない花火だと思います。

そういった意味でもこんなに、町民が一丸となってやっている事業はないんじゃないかと思っています。

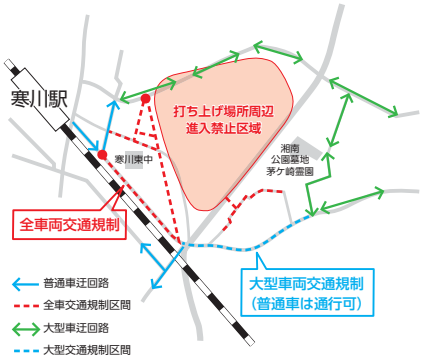
実行委員会の形は変わっていくと思いますが、今後もそういった事業であり続けてほしいと思っています。

第6回実行委員長
島村盛晶さん

寒川みんなの花火

日　時　11月3日(土)午後6時～6時20分
(荒天の場合は、4日(日)に順延)

ところ　寒川東中学校東側



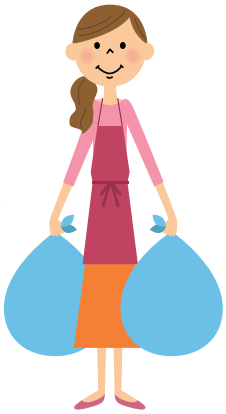
<注意事項>

- 所有者の許可なく田畑、私有地には入らないでください。
- 花火打ち上げ場所周辺では自転車から降り、押して歩いてください。
- 駐車場はありませんので公共交通機関をご利用ください。

問 寒川みんなの花火実行委員会
http://samukawa.wixsite.com/minnanohanabi
samukawa.minhana@gmail.com

特集2

さむかわの「ごみ」について考えよう！



問 環境課　内線☎433　資源廃棄物担当　FAX(74)1385

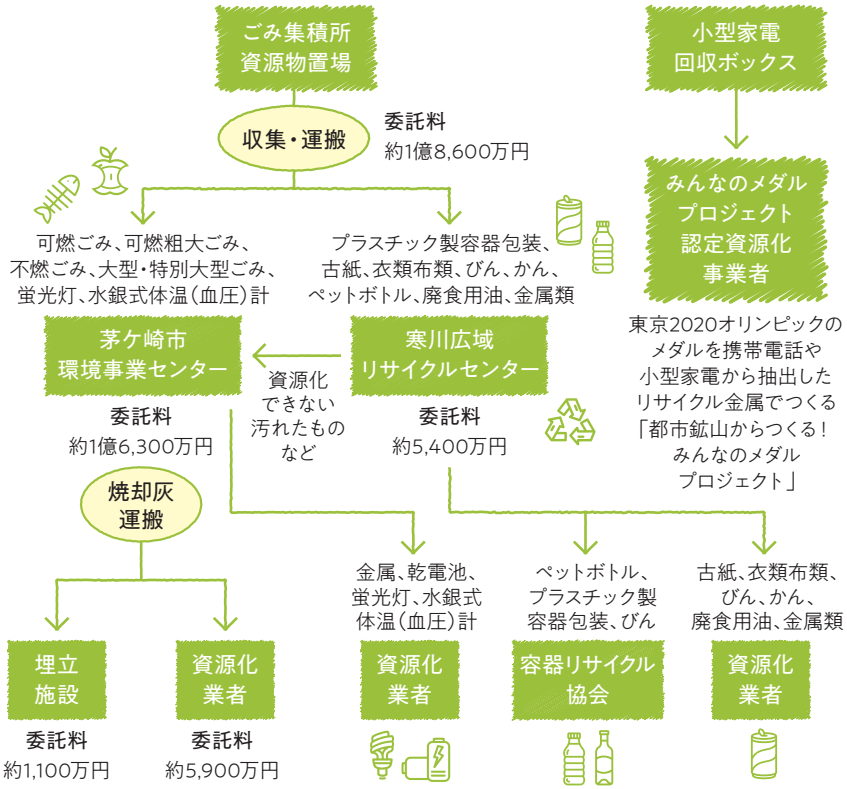
家庭から出る「ごみ」と「資源物」処理の流れ

毎日の生活の中で、必ず排出される「ごみ」。皆さんは、ごみを捨てるときにそのごみがどのように処理されているかを考えたことがありますか？

町では、経済性・効率性の観点から、昭和35年のごみ収集開始当初より、ごみ集積所や資源物置場から処理施設までの収集・運搬を民間委託とし左図の流れで処理しています。

ごみは焼却することで減量されるものの約1割の焼却灰が残ってしまいます。町には灰を処分する施設がないので、県外の民間施設に灰の処分を委託し、埋立処理や道路の路盤材などにリサイクルしています。

ごみ処理の流れ



ここに課題あり！

❶千葉県銚子市にある焼却灰の埋立施設は、後2年程度で閉鎖する予定です。新たな埋立施設を探すのは、周辺に住む方々への配慮や自治体間の協議など、簡単なことではありません。神奈川県内では受け入れてくれるところはなく、県外の埋立施設を探しています。

❷ごみを処理するための委託料だけで年間約4億7,300万円もの予算が投入されています。ごみ処理のために町民のみなさんに購入していただいている指定収集袋の売上収入約3,400万円の14倍もの経費がかかっています。普段、意識することは少ないかもしれませんが、ごみ処理には膨大な経費がかかり、ごみ量が増えれば増えるほど、たくさんの税金がごみ処理に使われることになるのです。

この課題を解決するためには、ごみの減量化が必要です。

千葉県銚子市にある焼却灰埋立施設

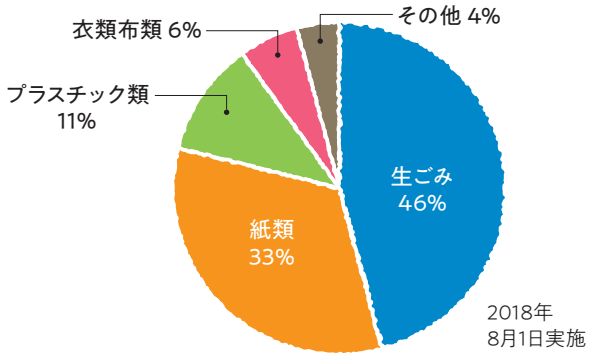
こうすればもっと燃やすごみを減らせる！

将来にわたり、安定的な廃棄物処理を継続していくためには、燃やすごみの排出量を減らす必要があります。

家庭から排出される「可燃ごみ」の内訳を見てみましょう。

「生ごみ」には、野菜くずなどの台所ごみや食べ残し、期限切れによる廃棄などの食品ロスが多く含まれます。また、紙類やプラスチック類、衣類布類などの中には、資源に分別できるものが22・79％も含まれています。

家庭から出される可燃ごみの内訳（重量ベース）



種類	割合	資源物の混入状況
生ごみ	45.67%	0%
紙類	33.20%	12.18%
プラスチック類	10.81%	4.28%
衣類布類	6.25%	6.25%
その他	4.07%	0.08%
合計	100%	22.79%

減量のポイントは「正しい分別」と「生ごみ」

正しい分別

可燃ごみの中には資源になる紙類が12・18％混入しています。資源になる紙類には、折込チラシ、レトルト食品の箱、ダイレクトメール、包装紙、プリント類などの雑紙が多く入っています。

雑紙の分別は、ごみ箱の横に雑紙用の紙袋を用意しておくことで、ばらばらの大きさのものであっても集めやすくなります。

また、プラスチック類は、プラスチック製容器包装のパック類やレジ袋、ペットボトルが入っていて、4・28％の資源が混入しています。

衣類布類は、ウエス（工場などで使われる機械手入れ用の雑布）にもリサイクルされるので、洗濯してあれば資源に分別できるものばかりでした。

そのほかアルミ缶などの資源物の混入もありました。

生ごみ

「食品ロス」とは、食べられるにもかかわらず廃棄されている食品などで、環境に大きな負荷をかけるだけでなく、家計にとっても無駄な支出となります。野菜などの皮を厚くむきすぎたり、魚や肉の皮や脂身などを取り除きすぎたり、料理を作りすぎたり、買い物をしすぎて食べきれなかったりするのが発生理由です。

内訳は、「手付かず（直接廃棄）」が4・44％、「食べ残し」が6・52％、「調理くず」が34・71％となっています。

生ごみを減らすポイントは「3キリ」運動＋生ごみ処理器（機）

［使いキリ］ 計画的な買い物で食材を残さない。食材の捨てる部分を少なくし、調理くずを出さない。

［食べキリ］ 料理を作りすぎない。残ったものは、別の料理に活用したり、冷凍保存。

［水キリ］ 野菜の皮が余分な水分を吸収しないように、皮をむいてから洗うなど、ぬらさない工夫をする。

生ごみの8割は水分、水分は重さと臭いの原因となります。捨てる前に最後のひと絞り。

［生ごみ処理器（機）］

微生物や電気の力を使って発酵、分解し、量を減らしたり堆肥にしたりする。

これらのことを実践すれば、3割のごみの削減は夢ではありません。今、この瞬間からできる「ごみ」の削減。みんなで一緒に取り組みましょう！